

## 令和7年度 学校経営報告書(自己評価)

学校番号	68	学校名	静岡県立磐田西高等学校	校長名	西村 智子
------	----	-----	-------------	-----	-------

本年度の取組(重点目標はゴシック体で記載)

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	基本的な生活習慣の確立と高い規範意識の育成により、豊かな人間性を醸成する。	・『あせふこ+ (プラス)』の意味と意義を理解し、意識して生活している」生徒90%以上(生1) ・「気持ちの良い挨拶を自分からしている」生徒80%以上(生2) ・「制服(頭髪を含む)を正しく着用している」生徒90%以上(生3)	生1 90.3% ① 90.5% ② 90.8% ③ 89.7% 生2 96.0% ① 97.0% ② 96.7% ③ 94.4% 生3 98.4% ① 99.0% ② 98.9% ③ 97.4%	A	・「あせふこ+」に関して、生徒の自己評価は高いものの、実際の行動との間に差が見られるため、次年度はその差の解消に向けた取組を進める。 ・他者から見ても明るく気持ちの良い挨拶ができるよう、引き続き指導・支援に取り組む。 ・日常的に頭髪や服装を自ら正せる生徒の育成を目指し、計画的かつ継続的な指導・支援を行う。
		・日々の学校生活の中で個々の生徒に声を掛けている。(教1) ・「ルールやマナーの意義について考え、主体的に守ることができた」生徒90%以上(生4)	教1 97.6% 生4 97.9% ① 97.5% ② 98.9% ③ 97.4%	A	・生徒一人ひとりのセルフマネジメント力が高まり、全体として落ち着いた学習環境が維持されている。 ・今後も、教員による前向きな声掛けを積極的に行い、全ての生徒がルールやマナーを主体的に守れるよう、学校全体での指導・支援を継続していく。
		・「8:25朝読書を開始している」生徒90%以上(生5) ・「チャイムと同時に授業開始の準備ができている」生徒90%以上(生6) ・「次の予定と時間を意識した行動をしている」生徒90%以上(生7)	生5 95.2% ① 95.5% ② 97.8% ③ 92.7% 生6 99.7% ① 100.0% ② 98.9% ③ 100.0% 生7 97.3% ① 97.0% ② 97.8% ③ 97.0%	A	・8時25分の朝読書開始時刻を守っている生徒は95.2%に達しており、落ち着いた雰囲気の中で朝の時間を過ごすことができている。 ・ほぼすべての生徒がチャイム前に授業準備を済ませ、円滑に授業を開始することができているが、「受動的な学び」にとどまる場面も見られることから、進学・就職、さらにはその先の学びを見据え、主体的に学ぶ姿勢の育成に取り組む。
		・美化委員会・保健委員会による週末清掃点検の実施	・美化委員による毎週1回の清掃点検を再開。 ・保健委員による月1回のトイレ点検を新たに実施。	A	・美化委員会や保健委員会の活動を通じて、校内美化を推進しようとする生徒の意識の向上が見られた。

イ	生徒が主体的に学ぶ姿勢の形成を促し、確かな学力と幅広い教養を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「他教員の授業を見学し、自らの授業改善を行った」教員 80%以上 (教2)</li> </ul>	<p>教2 68.3%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参観週間を2回実施。</li> <li>・校内研修として商業科、国語科の研究授業実施。</li> <li>・中学生一日体験授業及び公開授業を実施(2回)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材や授業内容、生徒の活動等について、他教科の取組を参考にすることで、自らの授業改善につなげることができた。</li> <li>・中学生1日体験入学(8月5日) 中学生 681名参加 保護者 235名参観</li> <li>・公開授業(10月25日) 中学生 245名参観 保護者 110名参観</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ICTを活用する授業を行っている」教員 80%以上(教3)</li> <li>・「情報セキュリティを意識しながら学習支援ツールや教育用クラウドサービス等を活用した」教員 80%以上(教4)</li> </ul>	<p>教3 85.4%</p> <p>教4 90.2%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教務課が測定ツールを使い学校教育活動診断を実施。</li> <li>・年2回各授業担当がICTを使い授業アンケートを実施。</li> <li>・学習支援ツールや教育用クラウドサービスによる学習資料や課題の配布。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・磐周地区の小中学校で活用されている授業支援ツールの全学年への導入及び教職員の生成AI研修(2日間)の実施により、教員がそれらを活用しながら授業改善を進めている。</li> <li>・全ての教員がICTを活用した授業を実践しているが、生徒が主体的にICT機器を活用する場面をさらに充実させることで、より効果的な授業の実現が期待される。</li> <li>・「授業内容は充実しており、分かりやすいものが多い」と回答した生徒は86.1%、「板書やプロジェクトの表示が分かりやすい」と回答した生徒は88.9%であった。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生徒による主体的な活動や生徒同士の対話等のある授業・諸活動を行っている」教員 70%以上(教5)</li> </ul>	<p>教5 82.9%</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全科目の観点別評価データを提供するとともに、校内研修を通して、より適切な評価方法についての共通理解を図ることができた。</li> <li>・本校の実態に即した観点別評価の在り方を、全ての教員が授業の中で定着させていくことが今後の課題である。</li> <li>・ICTの効果的な活用により、「対話的で協働的な深い学び」の実現を目指し、今後も継続的に研究を進めていく。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「平日1時間、休日2時間以上の自主学習ができている」生徒 40%以上(生13)</li> <li>・「オンライン学習サービス等を利用して学習している」生徒 70%以上(生14)</li> </ul>	<p>生13 42.8%</p> <p>① 28.9%</p> <p>② 37.5%</p> <p>③ 59.0%</p> <p>生14 40.7%</p> <p>① 50.2%</p> <p>② 30.4%</p> <p>③ 40.6%</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「平日は1時間、休日は2時間以上の自主学習ができている」と回答した生徒は、昨年度38.1%から向上し、学年が進むにつれて増加している。特に3年生では主体的に学習に取り組む姿が多く見られた。</li> <li>・「オンライン学習サービス等を利用して学習している」生徒は昨年度31.9%から向上している。</li> </ul>

					・今後も、1年生の段階から自主学習の習慣が定着するよう働きかけをする必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「測定ツールやアンケートを活用して学習習慣等の改善に対する助言を行った」教員 70%以上(教6)</li> <li>・「学校の教育活動で、生徒は『学ぶ姿勢』が身に付いている」保護者 80%以上(保5)</li> </ul>	教6 65.9% 保5 81.4% ① 72.6% ② 77.8% ③ 91.2%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケートを年2回実施した結果、8割以上の生徒が授業内容に肯定的に回答した。</li> <li>・学習習慣の改善につなげるため、来年度はアンケート項目を見直し、各教科における自主学習状況を把握するとともに、その結果を活かし、生徒一人ひとりに応じた指導・支援を行う。</li> </ul>
ウ	普商併設の特色を生かし、地域・社会と連携しながら、生徒の多様な学習ニーズや進路希望に対応し、自己実現を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校からの進路情報や進路指導は適切である」生徒 90%以上(生15)</li> <li>・「学校の進路指導は適切であり、三者面談等は満足のいく内容である」保護者 80%以上(保6)</li> </ul>	生15 92.7% ① 90.0% ② 94.0% ③ 94.0% 保6 87.9% ① 89.4% ② 81.6% ③ 91.2%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒及び保護者から、「学校からの進路情報や進路指導は適切である」との高い評価が得られた。</li> <li>・今後は、生徒・保護者からのさらなる信頼獲得に向け、進路指導の充実を図るとともに、情報提供の時期や内容、面談の進め方等の標準化・共有化を進める。</li> <li>・さらに、「なぜ学ぶのか」「将来どのような人になりたいのか」といったキャリア意識の醸成を、面談や個別指導等を通して継続的に行っていく。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・『「双翼タイム」は、自己の在り方生き方を考えながら、課題を発見し、解決する力の向上に役立っている」生徒 70%以上(生16)</li> </ul>	生16 86.1% ① 89.6% ② 84.8% ③ 84.2%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『「双翼タイム」は、課題を発見し解決する力の向上に役立っている」と回答した生徒は 86.1%であり、各学年における取組を通して、探究活動に必要な力が着実に身に付いている。</li> <li>・今後の課題として、1・2年生の段階から探究活動を通して進路意識を高め、進路実現につなげていく必要がある。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「個人で、または部活動や委員会活動を通して、地域行事やボランティア活動、国内・海外研修等に年1回以上参加した」生徒 60%以上(生17)</li> </ul>	生17 61.1% ① 66.7% ② 60.3% ③ 56.8%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種情報やイベントの案内等を積極的に生徒に提供したことにより、「地域行事やボランティア活動、国内・海外研修等に年1回以上参加した」と回答した生徒は 61.1%となり、昨年度より増加した。</li> <li>・商業科の授業や委員会活動、部活動等において、地域の機関・団体等と積極的に連携・協力した取組を行っている。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「図書館を通じた読書活動の推進が活発に行われている」生徒60%以上(生18)</li> <li>・「年間7冊以上の本を読む」生徒70%以上(生19)</li> </ul>	生18 44.9% ① 39.8% ② 45.7% ③ 48.7% 生19 40.2% ① 40.8% ② 41.3% ③ 38.9%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間読書7冊以上の生徒は全体の25.7%(昨年度17.1%)、1人当たりの平均読書冊数は5.8冊(昨年度4.8冊)であった。</li> <li>・目標には達していないものの、図書室の整備や購入図書の選書、掲示板の工夫等により一定の成果が見られた。</li> <li>・図書委員による「児童への読み聞かせ」は例年7月に実施しているが、今年度はボランティアの協力を得て12月にも実施した。参加した生徒の多くが高い達成感や充実感を得たと回答した(7月80.0%、12月83.4%)。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「進学補習を活用した学習や資格・検定試験に挑戦した」生徒50%以上(生20)</li> </ul>	生20 59.6% ① 55.2% ② 54.3% ③ 67.5%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年が進むにつれて進学補習への参加意欲が高まり、特に3年生では積極的な参加が見られた。</li> <li>・商業資格の基礎的な級では今年度も合格率が100%近くとなった。さらに、専門学校の講師を招き、上級資格に挑戦しやすい環境を整えたことで、上級資格への受験者数が昨年度より増加した。</li> </ul>	
エ	人権を尊重し、多様な価値観を認め、互いに支え合う姿勢を土台とした人間関係形成力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「人権や情報モラルに関する講座や授業を通して、人権意識が向上した」生徒80%以上(生21)</li> <li>・いじめ等に関する指導案件なし</li> </ul>	生21 86.9% ① 88.6% ② 86.4% ③ 85.9%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、講座や授業を通して、生徒の人権意識の一層の向上に継続して取り組む。</li> <li>・学校全体で自己決定の場の提供や安全・安心な風土づくりを進め、生徒の自己存在感の醸成や共感的な人間関係の育成を図るとともに、人間関係上の課題が深刻化しないよう、早期対応に努める。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・相互に円滑なコミュニケーションを図ろうとする姿勢・雰囲気がある。(生22)</li> </ul>	生22 89.5% ① 88.6% ② 89.7% ③ 90.2%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者の考えや個性を尊重し、クラスや学年、部活動の仲間を大切に思い、自ら友人に声を掛け、困っている友人を率先して手助けしようとする姿勢が見られる。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「先生方は私の良いところを認め、意欲や向上心が高まる言葉をかけてくれる」生徒90%以上(生22)</li> </ul>	生22 89.5% ① 88.6% ② 89.7% ③ 90.2%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員による前向きな声掛けにより、生徒の肯定的な反応が多く見られる。今後も、生徒の自己有用感を高めるとともに、安心・安全な教育環境づくりに取り組んでいく。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校生活の悩みについて、先生方やスクールカウンセラーに相談できる」生徒 70%以上 (生 23)</li> <li>・「先生は保護者からの連絡・悩み・相談したいことについて、適切に対応してくれる」保護者 85%以上 (保 17)</li> </ul>	<p>生 23 83.8%</p> <p>① 80.1%</p> <p>② 89.1%</p> <p>③ 82.9%</p> <p>保 17 89.2%</p> <p>① 91.1%</p> <p>② 88.6%</p> <p>③ 88.0%</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面接週間や相談室、スクールカウンセラー、生徒支援アンケート等を通して、生徒の困り感を的確に把握し、適切な支援につなげている。</li> <li>・教員数に対して生徒の困り感が年々増加している現状を踏まえ、保健課と学年が連携・協力しながら、個別対応の在り方を検討していくことが今後の課題である。</li> </ul>
オ	家庭や地域等との連携を基盤とした、安心・安全で信頼・応援される学校づくりを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校・学年行事、学習活動、課外活動等について、週1回以上のホームページの更新を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週1回以上、ホームページの更新を実施。</li> <li>・インスタグラムの運用を開始。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校のホームページは週1回以上の更新を継続している。今年度は新たにインスタグラムの運用も開始しており、今後は学校全体で連携しながら、より積極的な情報発信に取り組んでいく。</li> </ul>
		<p>教育用クラウドサービスやきずなネットを最大限活用し、効率よく効果的な情報提供を行っている。(教7)</p>	<p>教7 75.6%</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡手段や配布物の電子化を積極的に推進するとともに、教育用クラウドサービスや「きずなネット」を効果的に活用できる環境整備を進めた。</li> <li>・今後も、生徒・保護者に対し、ICTを活用した適時適切な情報提供の充実を図っていく。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域防災訓練参加生徒及び教職員 70%以上</li> <li>・「災害時に対応できる」生徒 75%以上 (生 24)</li> <li>・「交通ルールを遵守している」生徒 90%以上 (生 25)</li> <li>・「健康に関する講座を通して意識が向上した」生徒 80%以上 (生 26)</li> </ul>	<p>生 24 92.1%</p> <p>① 94.0%</p> <p>② 89.7%</p> <p>③ 92.3%</p> <p>生 25 97.6%</p> <p>① 98.5%</p> <p>② 96.7%</p> <p>③ 97.4%</p> <p>生 26 96.6%</p> <p>① 97.0%</p> <p>② 95.7%</p> <p>③ 97.0%</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域防災訓練への生徒参加率は79%で、事前の周知の結果、昨年度より参加率が向上した。</li> <li>・校内防災訓練では、生徒が臨機応変に対応し、主体的に取り組む姿勢が見られた。</li> <li>・「交通ルールを遵守している」と回答した生徒は97.6%であるが、引き続き登下校時の交通事故等の防止に向け、啓発・注意喚起を徹底していく。</li> <li>・健康への意識が向上した生徒は全体で96.6%であり、講座を通して一人ひとりが問題意識を持つことができた。次年度は、講座の学びがさらに深まるよう工夫を行う。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の事故及び不祥事なし。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンプライアンス、危機管理に関する研修を毎月実施。</li> <li>・各部署において、予算等の適正な執行と会計報告を実施。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な声掛けや事案の情報共有、ICTを活用した校内研修等を通して、教職員のコンプライアンス及び危機管理に対する意識向上を図った。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・監査等において指示、指摘事項なし。</li> </ul>		A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算の執行状況については適時報告を行った。職員の予算に対する意識も少しずつ高まっている。</li> </ul>

カ	生徒及び教職員が、生き生きと学校生活を送り、学び続ける意欲を持つことのできる環境を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「本校での学校生活に満足している」生徒・保護者 90%以上 (生 27) (保 26)</li> <li>・「学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動、部活動のいずれかにおいて積極的に活動できた」生徒 80%以上 (生 28)</li> </ul>	生 27 96.0% ① 97.0% ② 94.0% ③ 96.6% 保 26 94.5% ① 95.2% ② 93.9% ③ 94.8% 生 28 98.4% ① 98.5% ② 98.4% ③ 98.3%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事やホームルーム活動、生徒会活動、部活動等において、生徒は前向きに参加し、一体感や充実感が高まった。</li> <li>・今後は、生徒一人ひとりが受け身に楽しむのではなく、主体的かつ利他的に行動できるよう、継続的に働きかけていく。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備、備品・消耗品が適切に利用されている。</li> <li>・月例点検・管理職点検が行われている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部署において月1回以上の校内巡視を行った。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>用務員と協力して校内を巡視した。教員や用務員からの修繕要望については、可能な限り速やかに現場に出向き対応した。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「校内及び校外での研修や自己研鑽に積極的に取り組んだ」教職員 90%以上 (教 8)</li> </ul>	教 8 82.9%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた時間の中で、分掌や教科ごとに校内研修を企画・実施するとともに、業務に支障のない範囲で校外研修にも積極的に参加した。</li> <li>・また、県外先進校の視察や専門家による講演会の聴講等を通して、探究活動の一層の充実を図った。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・分掌の業務を「無くす」「減らす」「変える」の視点で見直す機会を年2回以上設ける。(教 9)</li> <li>・「業務の負担感・多忙感が改善された」教職員 50% (教 10)</li> </ul>	教 9 70.7% 教 10 29.3%	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務を「無くす」「減らす」「変える」という観点で見直しに取り組んだ教職員は 70.7%、「負担感・多忙感が改善された」と回答した教職員は 29.3%であり、いずれも昨年度より改善傾向にある。</li> <li>・業務の見直しや簡略化は各分掌で進められているが、改善策を検討する段階にとどまらず、確実に実行するとともに、新たな業務の標準として定着させるための仕組みづくりが課題である。</li> <li>・事務室では、業務改善の提案を行い、その実現に向けて継続的に取り組んでいる。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「おおむね週1回は定時に退勤できた」教職員 80%以上 (教 11)</li> <li>・業務の繁忙期であっても、20:00前に退勤する。(教 12)</li> </ul>	教 11 46.3% 教 12 95.1%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員は退勤時刻の早期化に努めているものの、生徒相談や進路指導等、時間を要する対応が多く、業務の特性上、定時退勤の実現には依然として課題が残っている。</li> </ul>